

新聞を活用して

# 新聞を見よう！読もう！

～漢字の組み立ての学習～

幕別町立糠内小学校

池田 圭子

## 新聞を見るから読むへ～中学年も新聞が読める？～

子ども達は、興味のある物を直ぐに見る「眼」を持っています。

とりわけ、写真・絵などはぱっと眼に入るようです。

では、活字は？

子ども達に「新聞」を見るか？聞いてみました。

全員、口を揃えて「見る」と言います。

何を見るの？

「TVの番組表」「天気予報」「4コマ漫画」「写真」「広告」「カラーの所」

などなど、自分の興味のあるものに対して直ぐ眼がいくようです。そして「眼を凝らして見る」ことができるようです。

「TVの番組表」はとても重要なようで、番組をチェックするそうです。

「天気予報」も気になるようです。

子ども達の話聞いてみると、興味も大切ですが、「これを見よう！」という目的意識を持って新聞を見ているように感じました。

そうか、目的があればもしかしたら、「新聞を見る」から「新聞を読む」へ移行するのは？

ということで、目的意識をはっきりさせて新聞を活用してみました。

新聞には、活字がたくさん。漢字もたくさん。言葉もたくさん。

そこで今回は、漢字の学習に取り入れました。



<自然がいっぱいの学校です>

## 漢字の組み立てで新聞を活用

3年生の国語の学習で「漢字の組み立て」があります。

この「漢字の組み立て」は、いろいろな漢字が左右、上下に別れていることを知り、「へん」「つくり」「かんむり」「あし」「たれ」「にょう」「かまえ」について、それぞれどんな漢字があるか調べる学習です。

<教科> 国語科

単元外教材<漢字の広場>「漢字」の系列

<教材の目標>

漢字の構成について初歩的な知識を得、正しく読んだり、書いたりする。

<配当時間> 5時間

<学習活動計画>

- ①いろいろな漢字を左右に分けて、共通している部分を見つけ出す。  
「へん」「つくり」について、どんな漢字があるか調べる。
- ②いろいろな漢字を上下に分けて、共通している部分を見つけ出す。  
「かんむり」「あし」「たれ」「にょう」「かまえ」について、どんな漢字があるのか調べる。
- ③部首のなかま集めをしよう。  
新聞を使って、部首のなかま集め
- ④新聞記事を使って、いろいろな漢字の部首を調べよう。
- ⑤漢字ゲーム  
漢字合わせゲーム  
1つの漢字を2つに分けてカードを作りバラバラにして、2枚のカードを合わせて1つの漢字をつくる。神経衰弱の要領で行うと楽しめる。  
ジョーカーゲーム  
白い紙を1枚入れて、ジョーカーにし、トランプの要領で進める。  
漢字合わせゲーム  
クイズを出す。例：お月様とお日さまが一緒になると？（明）

## 部首のなかま集めをしよう

子ども達に事前に準備させた物：のり、はさみ、えんぴつ、消しゴム

国語なのにのりとはさみの準備？子ども達はこの時点で、「一体何をするの？」「のりとはさみだからきっと楽しいよ。」？と期待半分、不安半分？

部首の種類の確認をし、漢字クイズをして、リラックス。

今日は新聞を使って、部首のなかま集めをすることを伝えて、新聞（1人1日分）とワークシートを配布しました。

<やり方>

- ①自分でどんな部首の漢字を探そうか1つ決めて、ワークシートに自分が調べる部首とその名前を記入します。
- ②1日分の新聞どこからでも良いので見て、自分が選んだ部首のつく漢字を見つけます。

③見つかったら、その漢字をはさみで切り抜いて、ワークシートに貼り付けます。  
これをどんどん繰り返します。

<ルール>

- ①同じ漢字は選ばないこと。全部違う漢字を選びます。
- ②漢字は見出しからでも、記事からでも、広告からでも選んで良いことにします。  
新聞のどの欄からでも選んでよい。

今回は、時間を区切って、1時間の中で2つの部首についてなかま集めをしました。

また、複式3・4年学級には、7人の子の在籍なので、個人で取り組ませましたが、単式の学級でしたら、グループで取り組むといいかもしれません。

子ども達は、実に集中して、じーと眼を凝らして新聞に見入っていました。直ぐに見つけて次から次へどんどん切って貼っていく子。なかなか見つからなくて、苦心している子。様々でしたが、1つ見つけるととっても嬉しそうにして、また次の漢字を見つけようと何度も新聞を見ていました。また、1つ見つかると眼が慣れてくるのか？どんどん見つけていました。

時間が経つにつれて、子ども達の中に余裕が出てきたのか？友だちの探している部首があると、

「〇〇、がここにあるよ～、いる？」

「あ、ちょうだい。」

などと、自然に交流が始まったりしていました。

また、3年生のT君は、「さんずい」のつく漢字のなかま集めをしていたのですが、「さんずい」がたくさん見つかるうちに「さんずい」の漢字のあった記事を読み始めました。わからない言葉や漢字は教師に聞きながらですが。すると、「さんずいのつく漢字はなんだか水に関係していると思うんだな。だって、水に関係しているような記事の内容がおおいんだもの。」と。

すると、それに刺激を受けて、3年生のS君も自分のワークシートをじーと見て、

「あー、ぼくの漢字、からだぼいのが多いな、違うのもあるけど。」

と言って、「先生、ここ読んでください。」

と自分の選んだ記事を読んで欲しいと。少し読むと、

「やっぱり、体のことが書いてあるよ。」

S君は「にくづき（月）」を調べているのでした。

自然と新聞をじーと見る子ども達。そして読み始めているのでした。



たくさん見つけて満足。どうやって見つけたかを発表してもらおうと、4年生のHくんは「隅から隅まで順番に一つ一つ字を見ていきました。そしたら、見つかりました。」

また、日ごろから新聞を読んでいる4年生のTくんは、「ぼくは、読みながら見つけました。したら、おもしろかった。いろんな漢字もあったし、いろんなことがわかった。」

それを聞いて、3年生のEさん、「ふだん読んでいる新聞も、こんなに楽しく勉強できるんだなって思いました。また、やりたいです。」



ぱっと見るだけでなく、眼を凝らして、ジーと見る（眺める）ことの大切さを子ども達は感じ取ったようでした。

さらに、たくさんの漢字を見つけた中で、おなじ部首の漢字には、似た意味、似た使い方のあるものがあるということに、気づいたのは大きな収穫でした。

また、普段、漢字の学習は繰り返し練習したり、漢字のテストをすることが多い子ども達にとって、こんなに楽しいものなんだと感じたものになったのではないのでしょうか？また、家庭に身近にある新聞を使うことによって、「見てみよう」「読んでみよう」という気持ちが芽生えたように感じます。

## 新聞記事を使っていろいろな漢字の部首を調べよう

同じ部首を集めてすっかり楽しんだ子ども達。次は、「新聞記事の中から漢字を書いて、その書いた漢字の部首を書こう。」というちょっと高度な学習。部首の名前を知らないと難しいので、1学期に学習した「漢字辞典の引き方」、漢字辞典を便りに部首も調べてみました。（漢字辞典の引き方は4年生の学習内容です。糠内は、複式ですので3年生・4年生両方の学習をしています。）

<やり方>

- ①今日の新聞の中から自分の好きな新聞記事を選ぶ。（今回は朝のうちに選ばせました。）
- ②自分の知っている漢字を見つけて書き出し、さらに部首を書いてみる。

前回、部首のなかま集めをしているせいか、スムーズに記事を見ていました。なぜか全員同じ記事でした。ちょうど、大雪の話題が朝の会でも出ていたし、糠内もたくさん雪ふった後だったからかもしれません。こつこつと漢字を書いていく中、子ども達は、ジーと新聞を見ていました。漢字を書くように伝えと、

「今、読んでいたんだよ。読んでから書いてもいい？」

「今日の何だか読んでみたい。」

「読めそうな気がするね。」

「えー読めない。漢字いっぱいだし。」

と。読めないという子もいて当然だと思います。

読まないでいいよ。文字を見ようと伝えるとまた、こつこつと書き出すのでした。

知っている漢字がたくさんあって、どんどん書きこんでいました。

「あれー、前って漢字、くさかんむり？りっとう？どっちかな？」

と調べてみると「りっとう」

「くさかんむり」だと思った。新しい発見。

書いた後は、発表。黒板に自分の選んだ漢字と部首を書いたの発表です。

「漢字を見つけよう」「部首を見つけよう」という目的を持って取り組むことができました。また、天気・季節の話題、地域の話題の記事には、3・4年生でも知っている漢字がわりとたくさん載っています。「知ってる」「見たことある」と子どもが安心して記事を見ることが出来るので、今回子どもたちが選んだ記事は、授業活用しやすかったです。事前に教師が子どもが好きそうな話題や、読みやすそうな内容のもの、言葉、漢字をチェックしておくとても新聞を活用しやすいです。

「いろいろな部首を調べよう」では、新聞を活用することによって、たくさんの文字の中から知っている漢字を見つける楽しさを味わいながら、漢字が組み立てられてつくられていることに気付いたり、いろいろな種類の部首があることを理解することが出来ました。

新聞記事の内容が気になっている子は内容も読んでいたようです。

4年生のT君は

「漢字にはへんやつくりなど、いろいろな部首があるということがわかった。新聞には漢字がいっぱい使われているし、情ほうがいっぱいなのでとても役に立つものだなあとおもいました。」

H君は

「こんな短い文章でもこんなに漢字があつてびっくりしました。新聞は読むだけでなく、漢字を調べることもできるんだ。新聞ですごいなと思いました。」

新聞で新しい発見もした子どもたちです。

## 「見る」から「眺める」そして「読む」へ

初めの頃、新聞の記事が読めないと言っていた3年生のHさん。理由は「難しいし漢字がいっぱい。」

以前から、学校でスクラップをしてもなかなか興味を示さなかったHさんでした。しかし、何度も一緒に新聞を見るうちに、きれいな写真・かわいい写真に興味を持つようになりました。クリスマスツリーの写真。赤ちゃんの写真・フィギアスケートの写真・おいしそうなお菓子の写真などなど。最初は写真で選んでいました。写真を選んできれいにとっこり。

部首の学習での感想は、

「新聞を使って、国語の勉強もできたのがすごいなと思いました。漢字の勉強や漢字もよくわかったのでよかったです。」

そのうち、「先生、どんなこと書いてあるんですか？」

と内容を知りたがるようになったのでした。内容を教えると

「ふーん。そうなんだー。」

2学期の終わりには、内容を自分で読もうとジーと眺めていました。

また、3学期始まって早々、教室で新聞を友だちと見て、どれをスクラップするか選んでいました。そして、記事の内容を教師に教えてくれるのでした。

「先生、黄金道路のフンベの滝、知ってる？見てみて（新聞を見せて）こんなにきれいなんだって。ここのところまで、車でも行けるようなことが書いてあるよ。みんなで行きたいねー。」

と。Hさんは、「新聞を見るから読む」に変わりつつあります。

また、すっかり部首のなかま集めも気に入ったようで、新聞を見ると友だちとなかま集めをしています。

Hさんもそうですが、7人の子ども達はすっかり新聞は「楽しい」と思っています。いろいろな情報が入っていることもわかってきたようで、「○歯建築士」の記事を読んでテレビの情報と比べる子がでてきたり、凶悪犯罪について自分の考えを教師に話したり、「こんなことがあったんだって」と地域の話題を教えてくれたり……。冬休みはスクラップもしていました。お家の人と一緒に新聞を読んだ子もいました。だんだん、見るから、眺める、そして読むに変わりつつある子どもたちです。

3学期になり、スクラップも慣れてきたこの頃、新たに子ども達に疑問が生まれつつあります。

新聞やテレビを見て、同じような内容の話題でも、焦点のあて方がちがうことに不思議があるようになってきました。

今後、同じ話題でも、焦点のあて方・見方の角度によって、内容が若干異なることも学習していきたいです。そして、自分で得た情報を自分の中で整理して、自分の考えを持つ力をつけほしいと思います。